

# 火山噴火から身を守ろう

八丈島は、東山(三原山)と西山(八丈富士)より成り立っている島です。1605(慶長10)年の噴火以降、噴火の記録はありませんが、2002(平成14)年に噴火未遂の兆候があり、八丈富士の深さ約3kmに南北に走る溶岩岩脈が貫入3m、その後2mぐらいに縮んだ経緯があります。現在、火山噴火予知連絡会により、「常時観測火山」に選ばれ、火山活動が気象庁により24時間体制で常時観測・監視されています。

## 噴火警戒レベル

- 各レベルには、「警戒が必要な範囲」を踏まえて、防災機関等の行動が5段階のキーワード(「避難」、「避難準備」、「入山規制」、「火口周辺規制」、「活火山であることに留意」)として示されています。
- 「警戒が必要な範囲」が居住地域まで及ぶレベル5(避難)及びレベル4(避難準備)については、「噴火警報(居住地域)」で発表します。
- 「警戒が必要な範囲」が火口周辺に限られるレベル3(入山規制)及びレベル2(火口周辺規制)については、「噴火警報(火口周辺)」で発表します。

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域 及び それより 火口側	レベル5 避難 	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	
			レベル4 避難準備 	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から居住地域近くまで	レベル3 入山規制 	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)。状況に応じて要配慮者の避難準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)
			レベル2 火口周辺規制 	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 活火山であることに留意 	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。		特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。

平成27年5月気象庁発行「火山噴火から身を守るための情報 噴火警報と噴火警戒レベル」から引用  
八丈島の火山は、東京都の活火山の噴火警戒レベル未導入火山です。(平成27年8月31日現在)

## 噴火警戒が対象としている主な火山現象

噴火警報では、主に下記の2つの現象に対する「警戒が必要な範囲」を発表します。

大きな噴石	爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされた直径約50cm以上の大きな岩石等は、風の影響を受けずに弾道を描いて飛散して短時間で落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。
火砕流	高温の火砕物(火山灰、軽石等)と高温のガスが一体となって猛スピードで山腹を駆け下る現象です。温度数百℃、最大時速100km以上にも達し、その通過域では焼失・破壊など壊滅的な被害が生じます。

## その他の火山現象

溶岩流	火口から流出したマグマが火山の斜面を流れ下る現象です。マグマは通常900～1200℃の温度なので、この範囲に山林や建物があれば焼失し、時には集落が埋没する被害が生じます。
火山灰(降灰)	直径2mmより小さい噴出物が火口から噴煙として噴き上げられた後、風によって運ばれます。降灰が作物に積ると枯死するなどの被害を受け、積もった重みで屋根がつぶれることもあります。特に降灰が降雨によって水を含むと非常に重くなり、被害が拡大します。
小さな噴石	直径2mm以上のものを火山れき(小さな噴石)と言います。強風時には10km以上も流されます。概ね1cm以上のものから被害が生じ、車の窓ガラスを割ったり、人にあたればけがのおそれがあります。

## 知っておこう! 火山防災の心得

異常と思われる現象を発見したら、すぐに町、警察、気象台などに連絡しましょう。



気象庁が発表する噴火予報及び噴火警報に注意しましょう。



噴火のおそれがある場合、危険な地域では事前の避難が大切です。



町からの指示があった場合にはそれに従いましょう。



噴火時の風下側では、小さな噴石が風に流されて遠方まで降るため、注意が必要です。丈夫な建物などに避難しましょう。



## 火山灰に気をつける



火山灰はガラスの破片に近く、目に入ると結膜炎に、のどに入ると気管支炎になってしまいます。降灰時にやむをえず外出するときは帽子、ゴーグル、マスク、手袋、レインコート、長靴で体を覆います。屋内に入る前には、灰をきれいに払いましょう。